

## 海外感染症流行情報 (2010年12月号)

東京医科大学病院 渡航者医療センター

### ・アフリカ中部でのコレラ流行

ナイジェリア、チャド、カメルーンなどのアフリカ中部で2010年5月よりコレラの大規模な流行がおこっています (WHO Global Alert and Response 2010-10-25, 11-1、外務省広域情報 2010-11-22)。10月末までにナイジェリアでは3800人以上の患者が発生し1500人以上が死亡しました。チャドでも4000人以上 (135人死亡)、カメルーンで8500人以上 (559人死亡) の患者が確認されています。

アフリカ中部はこれから乾季を迎えるため、コレラの流行は沈静化するものと予想されますが、現地に滞在する際には飲食物への十分な注意が必要です。

### ・輸入デング熱患者数の増加

2010年は日本の輸入デング熱患者数が大幅に増加しており、国立感染症研究所ウイルス1部の報告では、その数が10月末までに215例になっています。これは例年の倍以上の数です。感染国としてはインドネシアが多くなっています。

<http://www.nih.go.jp/vir1/NVL/dengue.htm>

東南アジアでは10月まで各地でデング熱の流行が報告されていますが、11月になり沈静化している模様です。タイでは9月中旬までに7万人、ベトナムでは10月上旬までに8万人、フィリピンでも9月末までに10万人近い患者が確認されました (Pro MED 2010-10-12)。

### ・ハイチでのコレラ流行

2010年1月に大地震の被害のあったハイチで、10月からコレラの大規模な流行がおこっています (WHO Global Alert and Response 2010-11-17, 11-24)。最初の流行は首都ポルト・プランスの北500マイルで発生しましたが、同国の北部全域に拡大し11月下旬までに患者数は6万人以上に達しました。死亡者数も1400人以上にのぼっています。隣国のドミニカや米国のフロリダでも輸入例が発生している模様です。

ハイチには日本からも政府職員や援助団体の職員が数多く滞在中であり、滞在中は飲食物への十分な注意が必要です。また、コレラには経口ワクチンがあり、接種により1年間は60%以上の予防が期待できます。このワクチンは日本で販売されていませんが、医師の個人輸入で入手できます。ワクチンは1週間隔で2回接種が必要です。

### ・香港で鳥インフルエンザ (H5N1型) の患者発生

2010年11月に香港で59歳の女性が鳥インフルエンザ (H5N1型) を発病し、入院治療を受けています (WHO Global Alert and Response 2010-11-19)。中国国内では今年二人目の事例になりますが、香港では7年ぶりの患者発生です。この女性は発病する直前に上海、南京、杭州を旅行しており、その旅行中に感染した可能性が高いようです。

国際獣疫事務局 (OIE) の報告によれば、2010年も中国の家禽の間では鳥インフルエンザ (H5N1型) の感染が持続しており、市場などで生きた家禽と接触しないように注意し

てください（外務省広域情報 2010-11-25）。

・ **パキスタンでの洪水にともなう感染症の流行**

パキスタンのインダス川流域では、7月からの洪水により 2000 万人以上が被災しました。この洪水後に昆虫媒介性の感染症が拡大しています（厚生労働省検疫所 2010-11-19）。蚊に媒介されるマラリアの患者は 41 万人、デング熱も 6000 人以上の患者が確認されています。さらにダニに媒介されるクリミア・コンゴ出血熱の患者も 36 人報告されています。洪水後は媒介する昆虫が繁殖するため、それが流行の原因になっているようです。

・ **中央アジア諸国でのポリオ流行**

中央アジアのタジキスタンでポリオ患者が多発しています。その数は 2010 年 7 月末までに 458 人に達しました。周辺のロシア、トルクメニスタン、ウズベキスタン、カザフスタンでも患者が発生している模様です（WHO Global Alert and Response 2010-11-15）。

WHO は流行地域に滞在する者にワクチンの追加接種を推奨しています。